

大切なお子さんを

交通事故から守るために

こどもの交通事故は、学校生活にも慣れてくる5月～6月頃に増える傾向があります。また、事故の多くは、自宅の近くで発生しています。特に、登下校中の事故が全体の約半数を占めており、お子さんが安心して道路を歩けるようになるためには、ご家庭での交通安全の声かけや見守りがとても大切です。大切なお子さんを交通事故から守るために、ご家庭で心がけていただきたいポイントをお伝えします。

お子さんに**交通ルール**を伝える時のポイント！

- お子さんの特性をふまえ、「お子さん目線」で伝える
- この先の場面を想定して見守る
- お子さんがよく歩く場所を一緒に歩きながら伝える
- わかりやすい表現で、繰り返し伝える
- 日頃から大人が良いお手本を示す

例えば…

- お話や遊びに夢中になると、周りがみえなくなる
- ボールを追いかけて、飛び出してしまう
- 友達や目的地を見つけて、急に走り出してしまう

感情をコントロールすることが難しく衝動的な行動をしてしまうことがあります。その行動が思いがけない事故に繋がることも少なくありません。ぜひご家庭でも日常の中で交通安全についてお話いただければと思います。



事故が起こりやすい場所

飛び出し



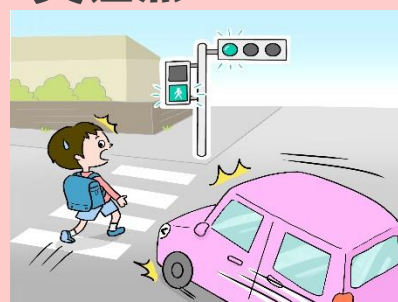
何かに夢中になっている時、校門や公園、家やお店から外に出るときなど、**飛び出しが原因の事故が最も多いので特に注意しましょう。クルマは急に止まれないことを予めお子さんに伝えておきましょう。**

横断歩道



信号が青になっても、**すぐに渡らず、車が止まったのを確認してから渡ることが重要です。お子さんは車からは見えにくいので、手を上げるなど横断する意をはっきり伝えることを繰り返し教えましょう。**

交差点



青信号でも車が左折・右折してくることがあります。たとえ信号が青でも安心せず、必ず「止まって」「左右を見て」「何も来てなかったら注意しながら渡る」ことをお子さんに癖付けましょう。

教室での取り組み

交通安全を題材にした絵本や紙芝居にて交通ルールを学びました。